

# シリーズ ■ 中学校武道

## 授業の充実に向けて

106

### 複数種目授業の実践報告と課題②（合気道・柔道）

綾部市立上林中学校 教諭 田川 穂高

上林中学校は京都府綾部市の山間部に位置する小規模・少人数の学校であり、平成27年度より小・中一貫校となり、9年間の一貫した教育を進めている。生徒は温かい地域社会に育まれ、明るく活発である。

綾部市は合気道開祖・植芝盛平翁が合気道を創始した地として広く知られており、本校では平成24年度より保健体育科授業において合気道授業を実施している。

授業実施にあたり、保健体育科教員が綾部市合気道協議会の合気道道場に通って習い、年に一度開催される「全国合気道指導者研修会」も積極的に参加している。

#### 1 本校の生徒の様子

▽上林小・中一貫校について

本校は、小学生25名、中学生20名（平成28年度時点）が新しい校舎で暮らしている。「確かな学力と豊かな心や健やかな体を持ち、夢に向かい、未来を拓く児童・生徒の育成」を学校の教育目標として掲げ、教育活動を展開している。

上林地区は、地域の大人が児童・生徒を見守ることや、保護者

#### 2 授業実践の工夫

▽本校の武道について

本校における体育実技授業は、1学年から3学年が合同かつ男女共修で行うことがほとんどである。そのため発達段階の違いや男女の体力差が顕著であり、単元ごとの目標設定と各生徒の実力に見合った課題の設定に対する工夫が必要となる。

本校の武道授業は、柔道8時間、合気道6時間を計画している。「少人数、全学年合同かつ男女共修」という、大半の学校にはない集団に対し、柔道、合気道それぞれの特性をうまく生かした授業の展開を目標としている。

▽柔道の授業について

柔道授業の中で最も大切にしていくのは、「礼」である。相手を尊重し、我が国固有の文化に誇りを持つこと、その気持ちを態度、所作に表すことを初回の授業から

徹底させている。

▽柔道の学習内容および成果

礼法、受け身、体落としなどの基本的な投げ技から袈裟固めなどの固め技、発展的な投げ技である釣り込み腰や、連絡技など、触れる技は多岐にわたる。

柔道は生徒間の体力差が如実に表れるため、技能向上だけでなく安全面を加味した指導方法を考えなければならぬ。学年ごとに課題に違いを持たせ、実技テストにおいても難易度を変えて設定することで、安全面に配慮しながら習得に対する意欲を高めている。加えて、少人数かつ落ち着いて指示が聞けるという生徒の実態と、授業補助としてT2を配置することで授業を円滑に進めることができている。

受け身に関しては、毎時間補強の後に行わせている。突発的な動きの中でとっさの受け身がとれるよう、身体に刷り込むことを目標とした。また、全ての投げ技においても、安全面を第一に、正しい受け身の動作を徹底して指導を行

った。

投げ技に関しては、釣り手と引き手の持つ役割を説明し、引き手においては投げ終わってから相手の安全を確保するため、離してはいけないことから「愛の手」と呼ぼうと教えると、生徒たちも意識して実践していた。また、相手を崩すことなど、理にかなった動きが武道において大切であるということも強調している。決められた動きを根気よく繰り返し、力強く、正しく安全に技をかけさせることができた。

▽柔道の授業における今後の課題

柔道は本来相手と組み合い、一本をとり、勝敗を競う武道である。しかし、現在の学校体育における柔道は、勝ち負けよりも相手を尊重する「礼」や「態度」を重んじること、安全面に留意する判断力を高め、決められた動作を繰り返し返し練習したり、試合で相手と攻防したりすることを通して競う喜びを感じ、体力を養うことを重視している。したがって、生徒たちに対し柔道の特性を理解させた

が学校行事へ積極的に参加することなどから、学校教育に対する理解と関心が高い地域であると言える。そういった温かい地域に育まれた生徒たちは、特有の素直さや優しさ、決まりを守る意識を持っている。

そんな生徒たちであるので、小・中学生が同じ校舎で日々の活動や行事などを行うにあたって、協力して積極的に取り組み、落ち着いた学校生活を過ごすことができている。

うえで、面白さを味わわせることが課題であると考えた。

本校では、発達段階の違いによる体力差が生じることで課題設定の難しさがあるが、3学年の生徒をリーダーとして練習をさせることで、相手との体力差を考えながら下級生に教える指導形態が確立でき、異年齢集団であるからこそその利点を生かすことができた。

今後も、授業者自身の技能の向上を目的として研修等に積極的に参加し、より一層の教材研究を行い、柔道の魅力を生徒たちに伝えていきたい。

▽合気道の授業について

合気道は綾部発祥の武道であり、合気道授業の実施は、ふるさと教育への視点に合致する。また、合気道の特徴である「勝敗がなく、競い合わない」ことは、体力差に左右されずに、本校での授業実施が可能となることに着目し、本校では平成24年度より体育授業に取り入れている。

授業の形態としては、1回2単位時間の授業を全3回、計6単位

教育のプロが選ぶ  
信頼の紙面

山積する教育課題の解決のヒントに  
日本教育新聞社

教育が大きく  
転換しています

活字離れの時代  
俯瞰で見られる教育情報

本紙独自の全国調査を中心に  
教育界の羅針盤

お申込・お問い合わせ  
0120-43-3746

— 形態 —  
B3 (プランケット)判(12頁)  
— 発行 —  
毎週月曜日(月4回・第5週休刊)  
— 購読料 —  
月額 2,700円  
(本体価格 2,500円 + 消費税 200円)  
年額 32,400円  
(本体価格 30,000円 + 消費税 2,400円)  
— お支払方法 —  
銀行引落からコンビニ支払、  
カード決済まで、ライフスタイルに  
あわせてお支払方法がございます。

を行うことができた。苦手な生徒も、分からない段階に戻って練習できるため、動きの習得に大変有意義であった。また、全ての練習を通し、学年男女が関係なくペアを組んで練習するようにさせた。これによって、合気道の特性を理解させると同時に、柔道同様、上級生が下級生に教えるスタイルを確立することにも繋がった。

最後の授業では校内で演武会を開催し、緊張感ある中で仲間と協力しながらこれまでの成果を発揮させることができた。授業の最後に書かせた生徒の感想は「相手と協力して技を覚えていくことに楽しさを感じた」「相手と気持ちを

通わせることは、日常の生活でも大切にしていきたい」といった前向きなものばかりであった。

▽合気道を通じた国際交流  
本校では、国際交流が盛んである。平成26年度にはスイス、平成27年度には香港、中国、平成28年度にはオーストラリアの生徒を本校に招き、交流の一環として合気道授業を行った。特に平成26年度は日本とスイスの国交樹立150周年にあたり、スイスのヌーシャテル合気道場より合気道を学ぶ生徒を招くことができ、本校生徒にとっても大変有意義な時間となった。合気道は言葉が通じなくても、身

振り手振りでコミュニケーションをとり、相手と心を合わせることで、生徒たちは異文化の子どもたちとの距離をみるみる縮めていった。合気道の持つ力に気付かされた。

▽合気道の授業における今後の課題  
合気道は綾部発祥の武道であること、そして、そのことを誇れるよう合気道の魅力を存分に伝えることが、今後常に追求すべき課題であると考えられる。そのため、授業者が合気道に対して少しでも広く、深く理解を持つこと、積極的に研修や稽古に参加し自らの技量を高めることが求められる。

本校では柔道と合気道の二つの武道を教えるため、それぞれの共通点と、考え方や技の違い、体の動かし方の違いを体験させてきた。今後もさらに、柔道、合気道それぞれの魅力、面白さを感じさせたいと考えている。そして、これらの武道を通して得た、他者を尊重する気持ちや物事に向かうときの集中力、仲間を思いやる気持ちを日常生活に生かすことのできる生徒を育てていきたい。



スイス・ヌーシャテル道場生との交流授業



綾部合気道協議会・塩尻忠臣氏による実技指導



オーストラリア・ルーメアハイスクール生との合気道交流



授業における模範演武

時間行っている。指導する内容としては、公益財団法人・合気会が発行する『合気道指導の手引』を参考としている。

毎回の授業に、綾部市合気道協議会より外部指導者として4名程招き、演武の披露や実技指導の補助を依頼している。授業者は本校勤務3年目であり、合気道歴も同様の3年目である。平成26年度および平成27年度は実技指導の大半を外部指導者に依頼し、授業者は全体の生徒指導を主に務めていた。

しかし、平成27年度および平成28年度に日本武道館研修センターで開催された「全国合気道指導者研修会」への参加および綾部市合気道協議会の先生方の教えをいただき、平成28年度は授業者が中心となって実技指導を行うことができた。このことで、より生徒に近い立場で、噛み砕いた動作の指導やアドバイスが可能となり、生徒たちの理解も高まったと考えられる。今後、さらなる研修を積み、より分かりやすく、生徒たちに合気道の魅力を伝えたい。

▽合気道の学習内容および成果  
合気道の持つ「体力差と、性差を超えて親しむことができる」という特性上、男女共修に向いていると考えられる。特に投げられた時の衝撃は柔道に比べて小さく、女子からの人気が高い。

合気道の指導を行う際に大切にしていることはやはり、「礼」である。また、柔道とは異なる点として、立位から座位になる際の膝の着く順序、受け身の際の足の使い方、体捌きと足捌き、そして技には左右、裏表があることなど、双方の武道としての考え方や動きの違いを明確にしている。

取り組む技としては、まず座位での呼吸法である。呼吸と動作の関係性や、相手と一体になるという合気道特有の感覚を少しでも感じさせたいからである。投げ技は角落し、小手返し、四方投げ(裏表)、一教(裏表)を行った。どの技も、相手と自分との位置関係、構え方を明確にし、投げ動作と受け身の動作それぞれを細分化し、それらに番号を振ること、段階を踏みながら反復練習

3  
まとめ